

48 林業経営の基盤

宮崎大学農学部 二宮金次郎

1. 公益性の高いものは国有林に統合し、治山治水の完璧を計らん

国民生活の安定を期するには其の業種業態の如何を問わず、天然に対する防備と抵抗力を補強し災害を最小限度に喰い止めることであるが、自然力に支配されていることの大きい我が農林業の生産性向上には勿論のこと、我が国力の進展に最も期待のかけられている工業の開発に欠くべからざる工業用水の確保からしても、豊富な水を利する水に転回して行くことが我国の自立国家形成に重要な要素である。殊に治山治水、国土保全というような事業は多額の投資と高度の技術を要する公共的大事業となればなお、第一種国有林と併せ民有保安林及び保安施設地区も国家買上げの上、強度の施策と施設の下に伊勢湾台風やチリーの地震位のあおりで民心を動揺せしめることなく、諸産業の生産の向上に務めせしむべきである。

殊に土地の不増加性と人口の自然増を勘案するときには狭き国土を堅実に守ることが第一務であらねばならない。一面森林の保安機能を常に旺盛に保持するためには保安林と雖も治水、防風機能の衰老老令過熟期に入らんとし、利用価値の大なるものは立地条件に応じて緩慢なる択伐更新により常時山林は幼壮令成熟林を以つて掩い、治水機能を高度に発揮せしめると共に森林収入も保安林といえども留意すべきである。更に潜在的財源として研究を要する処のものは治山治水に多額の投資によつて培われている水資源の利用に対する使用料徴収の問題である。灌漑用水はともかく仮に水力発電用として水の利用を考察するも、我国の包蔵水力二千万kWを全部開発すると1,000億kWhの電力量が年間に得られ、電気料金1kWh10円とすれば1兆円となり、更に工業用水、上水道、灌漑用水等を勘案すると龐大なる効用と使用価値を包蔵しながらこれを水に流しているところに林業経営の盲点がある。その波及経済効果を数字にて把握し善処すべきではなからうか。

今宮崎県内の発電事情を詳細に解明すれば、包蔵水力127万kWも県内にはあり、全九州の包蔵水力300万kWの42.3%を占めている。現在県下の発電所で1万kW以上のものを掲ると、九州電力31ヶ所36万kW、宮崎県営5ヶ所8万6千kW、旭化成3ヶ所3万3千kW其他5ヶ所で計44ヶ所48万kW開発されている。九州

電力の全水力発電69万kWの70%が宮崎県の水から生み出されている。更に開発中のものは九億4ヶ所29万kW、県営2ヶ所2万2千kW、開発予定のものは九億の2ヶ所3万2千kWがある。即ち現在の発電を倍増することが出来る。現在の年間発電量は24億kWhで、1kWhを10円とすれば240億円を水から発電企業として稼ぐことになり、宮崎県の本森林面積(国有187,500町民有376,500町)の過去3ヶ年間の森林収入の平均は年間80億円であるから発電による収入が3倍になる。かかる公共事業をこえ治山治水事業と併わせ国でなすべきではなからうか。而して整備されたる国土の上に国民生活の繁栄を祈ることが出来、国土保全は又所得倍増計画達成の支柱となるであろう。

2. 経済性に富むものは民有林に統合して生産性の向上を通じて林業所得の増大を計らん

とすれば先ず其の生産要素の均衡配分をなさなければならぬ。国土の狭い上に耕地率の僅少である(わずかに17%強)のに農家数は604万戸、平均反別1町歩で、安定農家は10%、90%迄が零細農家の存在する現状から見て国有林のあり方は再検討すべきである。

我が国の森林面積2,400万町歩はその地域的分布は概ね均等であり、又如何とも左右しがたき天与の存在なるも、これを所在形態別にその分布をみれば遼瀋乍ら国土の南端と北部たる北海道東北地方に国有林過多に偏在し山林に依り生計を営むべく宿命付けられている軒先から国有林に囲まれたる林地無所有の零細農家の集団部落なしとせず、これに反して中川、近畿、関東の中央部は全く民有林につつまれていることは今や社会問題として論議的である。文化もくまなく開け国民の山林経営の意欲も高揚してきた。経済も進展して政治も啓発せられて来た今日治山治水の国土保全の面は国有に統合して国有林として経営されることの必要性と共に経済性の高いものは最早国有林の一部づつを解放して民営に移行し、農業経営とかみ合わせ生産性の向上と国民所得の均衡に拍車をかける時期到来ではなからうか。明治20年第一次伊藤内閣の時内務大臣兼農商務大臣山県有朋氏は山林を國民有に置くことは乱伐して林業の発達を阻害するものとして、山林は政府所管にとの政策を取らせたが、次で黒山清隆氏が総

理となり、井上馨氏農商務大臣となるや国有林、市町村委議の議興りて明治20年の有名なる山林事件後明治21年宮崎県北部内藤藩で国有編入に抗議の動きを続けた地域は国有編入を免れて県北民有林の父として天外翁頌徳碑が建立され、明治政府の没収を喰止むとその功績がたたえられている。

それにひきかえ秋月藩（尾鈴国有林所在地）木城村では98%9730町歩は実に山林原野におおわれ農耕地乏しく、しかも90%以上が国有林で占められている高鍋営林署はむしろ木城営林署と比べてよい位である。本村を以つて構成されていると木城村長は国有林の偏在を嘆いている。一方国有林側の論、昭和2年11月熊本営林局貴島局長は営林署長会議において「近時国有林に対して種々なる地方的要望が段々と多くなつて参りました。各種の方面からこれが開放を叫ぶ声は増々盛んなものがあるが、社会は決して単純なものではないしかしながら私は大体からみて当然の傾向であると考えるのであります。年々人口は増すばかりか各種産業は段々に行詰つて世の中が次第に世智辛くなつてくる様に殊に農村の経済が窮迫するに従つて人々が土地に対する欲望の段々と熱烈に赴くということは免れ難い処であります。然も民族思想の興隆と相俟つて其の鋒先が国有林の開放に向つて来ることはどうしてもこれは必然的の結果であると考えられる。私はこれは決して不思議とは思わないばかりか、むしろこれを社会一般が国有林に着目し国有林を理解し、我々の辛さが漸く世に出る濼軋とも考えられて国有林掀興のためむしろ欲すべきことである」と訓示して居られます。

行政訴訟により国有林を民有林に下戻し、昭和32年東京在住の先輩蔵7勝氏は其の通信の一部に、私は只

今等弟経営の山林事業に手伝いをして、行政訴訟により国有林を民有林に取戻したる50年に亘る係争山林、その間禁伐入山禁止の山2万3千町歩が村有に戻り、勝訴の報酬として最良林分1割を貰つた。山で2,300町歩の原生林から伐木販売までですが私は造林を受持つています。御承知の通り大部分がスギに、一部カラマツ樹種の転換の予定です。目下伐木運材集材中、東大の加床助教授の設計にてケーブル架設が済み造林はすべて施肥の予定で、木灰又は固形肥料を用い生長の促進により伐期を早める計画ですとあります。

国有林を民間に委託しても国有以上の生産増強が行われることが判明します。我が宮崎県では南部中部の国有林地帯より、北部民有林地帯が成長において優位にあることは当学三善博士の民有スギ林収穫表にて明らかである。この度の農林基本対策の内容を伺つても国有林野対策の部に国土の狭いわが国で国有林は750万町歩、林野面積の3分の1を占めているが、零細経営農家が多い現状からみて国有林のあり方は再検討すべきである。従つて生産の拡大経営の合理化の方向を目指して行く対策として国有林解放の兆が論ぜられている。私は原則として国は国土保全に全力をそそぎ、経済性の分野は生産性の高揚と国民所得の、特に農林部門の他の工、商部門に対する所得均衡上からしても日本農業の構造は農業だけでは解決がつかないから、林業は特に育林生産とかみ合せて経営出来るように現地の事情をよく分析の上国有林野を割愛して林地を持たせて行くのが農学林学の労働力調整と高度利用の上からも林業を近代的産業政策の軌道に乗せるためにも良策であることを確信し、これをもつて日本林業経営の基幹となすものである。

49. 常緑広葉樹小径木用材林の施業に関する研究

林内照度について

宮崎大学農学部 三 善 正 市

常緑広葉樹林の林分成長量を増進し、伐採の回帰を短縮するためには、薪炭林にあつては択伐作業法をとることが合自然的であり、最も有利であることは既述のとおりである。

これを小径木用材林として施業する場合、択伐作業の採用が可能であるか、また皆伐作業と比較して何れ

が合理的であるかを検討することとした。

常緑広葉樹小径木用材林の目的樹種は幼壮令時の成長が迅速であり、萌芽および天然下種更新が旺盛である樹種を選ぶことが適切かつ有利であつて、その代表樹種としてシイ類があげられる。ゆえにシイ類を主とする目的樹種の更新および成長量と林分の立木度すな